

環境変化に対応した今後の学会活動



(株) ジェイテクト
綿民 誠

2020 東京オリンピック・パラリンピックもいろいろと議論はありましたが1年遅れで史上初めて無観客で開催され無事終了しました。海外との交流行事や聖火リレーもコロナ禍の影響で大幅に縮小されましたが、多くのメダルを獲得した日本選手の活躍に皆さんも一喜一憂されたことと思います。

思い起こせば、昨年2月3日にダイヤモンドプリンセス号が横浜港に係留され乗員乗客3,700人が検疫隔離された時、COVID-19 新型コロナウイルス感染症が我々の生活、経済に脅威となることを予測していた人は多くなかったと思います。

4月7日に最初の緊急事態宣言が発令され5月6日解除の予定が5月25日まで延長された頃から、これは大変なことになると考える人が多くなり、学会の行事も全て中止することが宣言されました。

関西支部の行事も中止となり今まで経験したことのない事態となりました。支部の役員会も毎回リモート会議での開催となり、年次総会もリモート参加で開催されました。

今年度はコロナ感染症蔓延という今までにない環境下で学会設立50周年の節目を迎えることになりましたが、リモート開催で行事は開催できています。これは、近年急速に発達したIT技術が職場に限らず各家庭にもいきわたり、10年前にはできなかった事も可能となっているからです。

今年度関西支部では、50周年キャラバン活動の一環として、従来大阪市内に集合し開催していたQCサロンをリモートで開催しています。年6回開催していますが、毎回60人前後の参加者で好評です。

また関西支部以外の地域からの参加者が約50%を占めています。聴講後のアンケートの回答では

「離れた地域から参加しやすい」、「移動の時間・経費が不要でオンラインだから東京から関西のイベントに参加できます。今後も是非継続をお願いします」、「移動がないので終業後に参加しやすい」などリモート開催にメリットを感じている回答が多かった半面、デメリットとして、「交流という面では顔が見えない点やどなたが参加しているかわからない」、「交流という意味では集合形式が良い」との回答もいただきました。

また「交流を深めたい人は集合で、地理的・時間的制約のある人はリモートで参加できるハイブリッドでの開催を希望する」という回答も多くありました。

次年度以降の開催については現在検討中ですが、リモートと集合のメリットを参加者が選択できるハイブリッドでの開催も有力であると考えています。

今回のコロナ禍で、日本では導入が進んでいなかった在宅勤務に取り組みざるを得なくなり多くの企業でリモート会議システム、クラウドサーバー等のITの導入が進められました。

コロナ感染収束の時期については現時点で予測する事は困難ですが、いずれ落ち着くことは間違いありません。そして、コロナ禍で大きく変化したリモートワーク、Web会議などの社会・職場の環境は元の状態には戻らないでしょう。

SNSの普及、動画配信の発展による環境変化はマスコミ・TV・映画業界に多大な影響を及ぼしています。これらの業界では環境変化への対応が急務となっています。品質管理学会も、職場環境が大きく変わる中、品質管理についての情報発信・行事開催について50周年を機に10年後を見据えて変えていくことが大切と考えています。